

日本地域学会ニューズレター

平成 21 年 no.1

平成 21 年 1 月 31 日

目 次

I. 会長挨拶	...	2
II. 総会報告	...	2
公立はこだて未来大学で開催された日本地域学会総会についての報告		
III. 理事会報告	...	3
平成 20 年度第 4～7 回理事会及び平成 21・22 年期中理事会についての報告		
IV. 優秀発表賞選考委員会報告	...	6
V. 日本地域学会学会賞優秀発表賞授賞者	...	6
VI. 編集委員会報告	...	6
機関誌編集委員会 第 19～21 回についての報告		
VII. 役員人事等	...	7
平成 21・22 年期中の役員人事等		
VIII. 平成 21 年度 日本地域学会 会費納入のお願い	...	10
平成 21 年度会費請求額, 会費早期納入の特典および Web 会員について		
IX. 第 46 回日本地域学会年次大会 (平成 21 年 10 月 10-12 日) のご案内	...	11
論文報告の募集, シンポジウムについて		
X. PRSCO 大会 (平成 21 年 7 月 19-22 日) のご案内	...	12
XI. 学会賞 授賞者選考候補者 推薦の募集	...	13
XII. 会員通信	...	14
<研究室だより> 岡山大学大学院環境学研究科・阿部宏史研究室		
XIII. 会員の移動	...	15
『地域学研究』バックナンバー申込書	...	17
正会員入会申込書	...	18

I. 会長挨拶

平成 21 年 1 月 1 日
日本地域学会
会長 多和田 眞

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。この度、平成 20 年 12 月 21 日に開催されました日本地域学会の新理事会において新理事の皆様のご推薦により、日本地域学会会長を務めさせていただくことになりました。副会長の氷鉋揚四郎先生、加賀屋誠一先生、細江守紀先生および理事の先生方の強力なご支援を賜り、日本地域学会の一層の発展に尽力したいと思っております。

ご存知のようにアメリカのサブプライムローン問題がアメリカの大手の証券会社であるリーマン・ブラザーズをはじめとする金融機関の破綻によって、世界の金融システムを混乱させ、世界経済をかつてないほどの深刻な状況に陥れています。日本も昨年の秋からこの影響を受けて、特に自動車を中心とする製造業の販売不振による生産縮小、それによる雇用状況の悪化によって 70 年代の石油危機をしのぐ深刻な事態を迎えています。グローバル経済の弊害を痛感せざるを得ません。このような事態は憂うべきことでありますが、これも貴重な体験として社会科学の研究に関わる研究材料として前向きに乗り切っていくことができればと思っております。

これまでの歴代の会長のご尽力によって日本地域学会は順調な発展を遂げ、前会長の熊田禎宣先生の時期に学会員数も 1,000 人を突破いたしました。世界経済が深刻なマイナス成長に直面しているこの時期においても、日本地域学会の一層の発展をめざして邁進してまいりたいと思っております。日本地域学会の全国大会での論文報告数や学会誌への投稿数は増え続けています。これまで以上に会員の皆様の研究活動を積極的に支援していくことができるように、学会員の皆様と協力して日本地域学会の一層の充実を図っていきたくと思っております。一昨年から大学院生を中心とする若手の研究者の研究を支援するために全国大会でアーリーバード・セッションを設け、このセッションでの優れた報告を表彰する制度や、優秀な学位論文の表彰の制度も設けられていま

す。将来を担う若い学会員にはこの制度を是非、積極的に活用していただき、研究成果を上げて日本地域学会の発展に貢献していただきたく存じます。

私はこれまで編集長として、学会の機関紙である「地域学研究」の編集に携わってきましたが、引き続きこの業務も継続させていただくことになっておりますので、機関紙の一層の発展にも心血を注ぐ所存であります。内容の充実はもちろんのこと、特に英文の投稿数を増やすことや、海外からの投稿を呼びかけることで、「地域学研究」の一層の国際化を進めていければと思っております。

また河野博忠先生や氷鉋揚四郎先生のこれまでのご努力によって、日本地域学会は世界中の地域学会と強力なネットワークを築いてまいりました。先進国はもちろんのこと、これからは東アジア諸国との連携も重要であると思っております。会員の皆様には日本地域学会が持つ海外とのネットワークを最大限に利用していただき、世界の研究者との積極的な交流を図っていただければ幸いです。

以上簡単ではありますが、会長としての抱負を述べさせていただき、皆様への御挨拶とさせていただきます。

(了)

II. 総会報告

平成 20 年度総会が、去る平成 20 年 10 月 25 日 13:00 より、公立はこだて未来大学キャンパス 4 階講堂で開催されました。まず、はじめに日本地域学会会長(熊田禎宣 千葉商科大学 教授)挨拶の後、外国からの来賓代表として、Prof. Dr. Antoine Bailly 氏よりご挨拶戴きました。この後、熊田会長を議長として下記の通り審議と報告が行われました。

2008 年度第 17 回学会賞授与式では、酒井泰弘委員長より経過報告の後、熊田会長より受賞者に各賞が授与され、総会は無事閉会しました。

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 来賓挨拶 Prof. Dr. Antoine Bailly (元 RSAI 会長、ジュネーブ大学教授)
4. 議題
 - 1) 新入会員・退会希望者の承認

昨年度総会以降、申込のあった84名の正会員(個人会員)と法人会員3団体の入会及び38名の正会員と法人会員1団体の退会が報告され、これを承認。

2) 名誉会員の承認

この件について藤岡名誉会員推薦委員長より、Peter Batey 教授、Geoffrey J.D.Hewings 教授が推薦され、これを承認。

3) 平成19年度の収支決算の承認

この件について有吉財務担当常任理事より報告があり、福井、富山監事から書面により適正に処理されていることが報告され、これを承認。

4) 平成20年度の収支予算(案)の承認

この件について有吉財務担当常任理事より予算案が提案され、これを承認。

5) 平成21・22年任期理事候補者の承認

この件について氷鉤総務担当常任理事より報告があり、投票に基づく候補者が提案され、これを承認。

6) 第46回(2009年)年次大会の開催地、開催校等の承認

この件について氷鉤総務担当常任理事より、広島大学で10月10-12日の予定で行うことが報告され、これを承認。

7) 第47回(2010年)年次大会の開催地、開催校の取扱いの承認

この件について氷鉤総務担当常任理事より、東日本で候補を選定中であることが報告され、今後の取扱いについては事務局に一任することを承認。

8) その他

5. 報告事項

1) 『地域学研究(38巻)』の編集

多和田編集委員長より、編集経過について報告があり、これを諒承。氷鉤総務担当常任理事よりJ-STAGE市の洋河貯水池における水質改善政策の総合評価によるアーカイブ公開について報告があり、これを諒承。

2) RSAIの動向

3) PRSCOの動向

4) その他

6. 学会賞授与式

1) 選考経過報告

2) 学会賞授与

功績賞 該当者なし

論文賞(第18号) 細江 守紀「情報公開と廃棄物不法投棄対策の経済分析」

論文賞(第19号) 三友 仁志「情報通信基盤整備の経済効果と利用の高度化に関する研究」

奨励賞(第33号) 野村 良一「Feasibility of FTA/EPA and Timing of Trade Policy」

奨励賞(第34号) 鈴木 雅勝「中国の三地域・二領域・二部門分割による人口移動を含む計量経済学的分析」

奨励賞(第35号) 山口 類「ベイジアンネットによる店舗間回遊行動の確率的推論」

著作賞 該当なし

学位論文賞

田中啓一賞(博士論文賞)

博士論文賞(第6号) 前田 祐治「An Empirical Analysis of Captive Insurance Companies and Risk Management」

博士論文賞(第7号) 内田 晋「循環型社会に適したエネルギー技術とその普及政策の最適化モデルシミュレーションによる評価」

博士論文賞(第8号) 大塚 時雄「情報化が消費者の選択行動に与える影響に関する実証的研究－表明選好データに基づく選択確立モデルの適用－」

博士論文賞(第9号) 張 鍵「環境共生型都市形成可能性に関する経済的評価分析」

博士論文賞(第10号) 張 巧雲「Study on Land Degradation and Rural Poverty in China」

博士論文賞(第11号) 近藤 明子「地域間交流および人口移動モデルの構築に関する研究」

修士論文賞

修士論文賞(第3号) 徐 峰「中国河北省秦皇島における水質改善政策の総合評価」

修士論文賞(第4号) 山田 文子「首都圏食品製造業における産業集積の経済効果に関する実証分析」

III. 理事会報告

平成20年度 日本地域学会 第4回理事会

日時: 平成20年10月24日(金) 18:00-20:00

場所: ロワジュールホテル函館

出席者: 熊田, 加賀屋, 氷鉤, 藤岡, 有吉, 澁澤, 白井,

河村, 木南, 河野, 近藤, 斎藤, 酒井, 高橋, 多和田, 富川, 萩原, 原, 細江, 松本, 光多, 三橋, 三友, 宮田の各理事 (ただし, 浅見, 戸田, 福岡の各理事より委任状付託); オブザーバとして長野大会準備委員長, 古屋大会実行委員, 内藤前年度大会実行委員, 藪田学術副委員長; 内田, 水野谷, 櫻井の各幹事; 坂田事務局秘書
議題

1. 新入会員・退会希望者の承認

前回理事会以降, 申込のあった 23 名の正会員 (個人会員) の入会と, 6 名の正会員の退会希望を審議し, 総会に諮る事を諒承。

2. 平成 20 年度第 45 回年次大会の運営

これに関して長野大会実行委員長と氷鉤総務担当常任理事より, プログラムの変更と優秀発表賞の審査及び総会次第について説明があり, これを諒承。

3. 第 21・22 年期理事候補者名簿

これに関して氷鉤総務担当常任理事より, 投票結果の報告があり, 総会に発議する理事候補者名簿について審議を行い, これを諒承。

4. 年次大会次期開催地・開催校

これに関して氷鉤総務担当常任理事より, 次回は広島大学において実施する予定である旨説明があり, これを諒承。

5. 年次大会次々期開催地・開催校

これに関して氷鉤総務担当常任理事より, 東日本で検討中であることが報告され, 今後のこの取扱については事務局に一任することを諒承。

6. 平成 20 年度会費未納者についての措置

これに関して氷鉤総務担当常任理事より, 会費未納者の現況と改善を図りたいとの説明があり, これを諒承。

7. その他

大学評価機構への推薦者リストについて氷鉤総務担当常任理事より説明があり, これを諒承。

報告事項

1. 『地域学研究』第 38 巻の編集

J-STAGE によるアーカイブ公開の件

2. RSAI の動向

3. PRSCO の動向

4. その他

平成 20 年度 日本地域学会 第 5 回理事会 (持回り)

日時: 平成 20 年 11 月 10 日 (月) 17:00

議題 1. 優秀発表賞選考委員会の構成について

平成 20 年度年次大会 (於: 公立はこだて未来大学 (函館市)) における日本地域学会学会賞優秀発表賞選考のための優秀発表賞選考委員会の構成を, 日本地域学会学会賞優秀発表賞規程 (以下, 規程) 第 4 条第 2 項及び第 3 項に基づき以下のように選出する件につき審議に付し, 承認が得られた。

委員長 酒井 泰弘 (規程 4 条第 2 項第一号)

副委員長 (委員長指名) (規程第 4 条第 3 項)

委員 氷鉤 揚四郎 (規程第 4 条第 2 項第二号)

有吉 範敏 (規程第 4 条第 2 項第二号)

渋澤 博幸 (規程第 4 条第 2 項第二号)

多和田 眞 (規程第 4 条第 2 項第三号)

加賀屋 誠一 (規程第 4 条第 2 項第四号)

熊田 禎宣 (規程第 4 条第 2 項第四号)

河野 博忠 (規程第 4 条第 2 項第四号)

萩原 清子 (規程第 4 条第 2 項第四号)

細江 守紀 (規程第 4 条第 2 項第四号)

光多 長温 (規程第 4 条第 2 項第五号)

三友 仁志 (規程第 4 条第 2 項第五号)

平成 20 年度 日本地域学会 第 6 回理事会 (持回り)

日時: 平成 20 年 11 月 30 日 (日) 17:00

議題 1. 優秀発表賞選考について

平成 20 年 11 月 16 日に優秀発表賞選考委員会が開催され, 以下の通り選出する件につき審議に付し, 承認が得られた。

1) 川本 清美 (北海道教育大学)

2) 古澤 慎一 (新潟大学)

3) 小林 誠 (筑波大学)

4) 植野 幸史郎 (筑波大学)

5) 樋口 靖典 (北海道大学)

6) 張 媛 (南山大学)

7) 曾根 秀一 (滋賀大学)

8) Hussein Massar (早稲田大学)

9) Jingjing Yan (筑波大学)

議題 2. 最優秀発表賞選考方法について

規程第 12 条に基づき, 上記優秀発表賞の中から最優秀発表賞授賞者を選考する方法につき審議に付し, 以下の通り承認が得られた。

「上記議題 1. の承認後, 優秀発表賞授賞者が既に提

出しているレジメについて優秀発表賞選考委員会委員全員が査読審査を実施(ただし、優秀発表賞授賞者が選考委員の関係者の場合には、当該選考委員は当該関係者については評価しない)し、査読者の平均評価が最高得点の者に最優秀発表賞を授賞する。同点の場合には複数授賞を可とする。」

平成 20 年度 日本地域学会 第 7 回理事会

日時: 平成 20 年 12 月 21 日(日) 13:00-14:45

場所: 日本交通政策研究会 会議室

出席者: 熊田, 加賀屋, 氷鉤, 藤岡, 有吉, 渋澤, 白井, 木南, 河野, 酒井, 高橋, 多和田, 戸田, 原, 細江, 光多, 三橋, 宮田の各理事(ただし, 浅見, 近藤, 斎藤, 萩原, 福岡, 松本, 三友の各理事より委任状付託); オブザーバとして富山監事, 長野大会実行委員長; 内田, 小林, 水野谷, 櫻井の各幹事; 坂田事務局秘書

議題

1. 学会賞優秀発表賞の件

これに関して氷鉤総務担当常任理事より、学会賞優秀発表賞の規程を改正する規程について提案があり、これを諒承。

2. 新入会員・退会希望者の承認

前回理事会以降、申込のあった 2 名の正会員(個人会員)の入会と、1 名の正会員の退会取りやめ及び 3 名の正会員の退会希望を審議し、総会に諮る事を諒承。

3. 第 45 回(2008 年)年次大会会計報告

これに関して長野大会実行委員長より報告があり、これを諒承。

4. 第 46 回(2009 年)年次大会準備委員会の構成

これに関して戸田大会準備委員長より年次大会準備委員会の構成について提案があり、これを諒承。

5. 第 46 回(2009 年)年次大会の並行セッション及びシンポジムの編成

これに関して戸田大会準備委員長より、年次大会の並行セッション名の提案とシンポジウムの企画について説明があり、これを諒承。

6. 名誉会員推薦委員会の件

これに関して藤岡名誉会員推薦委員長より、同委員会として熊田会員及び酒井会員を名誉会員に推薦する旨説明があり、審議の結果、総会に諮る事を諒承。

7. 『地域学研究』セット販売の推進

8. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

9. その他

報告事項

1. 『地域学研究』第 38 巻の編集

多和田編集委員長より編集状況の報告が行われた。氷鉤総務担当常任理事より、機関誌の年 4 回の定期的刊行を実施する予定である旨報告が行われた。

2. 第 5 回理事会(持ち回り)及び第 6 回理事会(持ち回り)の件

氷鉤総務担当常任理事より、優秀発表賞に関する持ち回り理事会の議題について報告が行われた。

3. RSAI の動向

4. PRSCO の動向

5. その他

氷鉤総務担当常任理事より、Early-bird セッションの論文の取扱いについて、規程を作成する旨報告が行われた。

平成 21・22 年期 日本地域学会 新理事会

日時: 平成 20 年 12 月 21 日(日) 14:45-15:15

場所: 日本交通政策研究会 会議室

出席者: 多和田, 加賀谷, 氷鉤, 細江, 有吉, 渋澤, 白井, 岡村, 熊田, 木南, 河野, 酒井, 高橋, 戸田, 中山, 原, 福井, 藤岡, 光多, 三橋, 宮田の各理事(ただし, 浅見, 近藤, 斎藤, 富川, 萩原, 三友の各理事より委任状付託); オブザーバとして富山監事; 内田, 小林, 水野谷, 櫻井の各幹事; 坂田事務局秘書

報告事項

1. 平成 21・22 年期理事会の構成

氷鉤事務局長より、新理事会の構成について報告があり、これを諒承。中川会員については新理事を辞退する旨報告があり、これを諒承。

議題

1. 平成 21・22 年期役員人事

熊田会長より、多和田会員を新会長として推薦する提案があり、審議の結果これを諒承。その後、新会長より、加賀屋, 氷鉤及び細江会員を新副会長として、有吉, 氷鉤, 渋澤会員をそれぞれ財務担当, 総務担当, 庶務担当の常任理事として、富山会員及び筒井会員を監事として推薦する提案があり、審議の結果、これを諒承。多和田新会長より、各種委員会の人事については執行部に一任する提案がされ、審議の結果、こ

れを諒承。

2. その他

IV. 優秀発表賞選考委員会報告

平成 20 年度 日本地域学会学会賞 第 1 回優秀発表
賞選考委員会

日時: 平成 20 年 11 月 16 日 (日) 10:30-11:00

場所: 日本交通政策研究会 会議室

出席者: 酒井, 氷鉤, 有吉, 加賀屋, 河野, 渋澤, 多和田,
萩原, 三友の各委員 (ただし, 光多委員より委任状付
託); 内田, 小林, 水野谷, 櫻井の各幹事; 坂田事務局秘
書

議題

1. 第 45 回 (2008 年) 年次大会 第 1 回優秀発表賞 選考の件

座長評価に基づき, 優秀発表賞授賞候補者の選考
が行われた。また, 優秀発表賞選考委員会委員によ
る候補者の発表論文レジュメの査読評価に基づき,
最優秀発表賞授賞候補者の選考を行なうことを了承
した。

2. その他

V. 日本地域学会学会賞 第 1 回優秀発表 賞授賞者

第 1 回優秀発表賞選考委員会の審議及び第 6 回
理事会の議を経て, 第 17 回日本地域学会学会賞 第
1 回最優秀発表賞及び優秀発表賞が以下の通り授与
されました。なお, 表彰式は, 第 7 回理事会 (平成 20
年 12 月 21 日) の席上で執り行われました。

最優秀発表賞

川本 清美 (北海道教育大学) 「地域環境管理に
おけるソーシャル・キャピタルの役割に関する研究」
優秀発表賞

Jingjing Yan (筑波大学) “The Synthetic Quan-
titative Evaluation of Sustainable Development
of Resource-based Cities: A Case Study of Pan-
jin city”

古澤 慎一 (新潟大学) 「共有資源の管理活動に
関する政策的検討」

樋口 靖典 (北海道大学) 「多地域応用一般均衡
モデルを用いた北海道における道路整備効果に関す
る研究」

曽根 秀一 (滋賀大学) 「地域経済と老舗企業の
相互依存関係について - 竹中工務店および金剛組
を中心とする事例研究 -」

張 媛 (南山大学) 「中国における地域経済格差
と環境負荷の構造分析」

小林 誠 (筑波大学) 「水素エネルギー導入によ
る環境負荷低減に関する研究」

Hussein Massar (早稲田大学) “Empirical Anal-
ysis of User Adoption of Mobile Virtual Network
Operator Services in Saudi Arabia”

植野 幸史郎 (筑波大学) 「地球温暖化の視点か
らみた窒素循環のあり方に関する研究」

VI. 編集委員会報告

日本地域学会 第 19 回編集委員会

日時: 平成 20 年 10 月 4 日 (土) 13:00-15:00

場所: 日本交通政策研究会 会議室

出席者: 多和田, 氷鉤, 加賀屋, 木谷, 木南, 渋澤, 藤岡,
光多, 三友, 熊田の各編集委員 (ただし, 有吉, 斎藤, 高
橋, 原, 長野委員より委任状付託); 水野谷, 櫻井の各
幹事; 坂田事務局秘書

議題

1. 『地域学研究』第 38 巻掲載候補論文の選考

レフェリー評価に基づき, 第 38 巻の掲載論文の
選考が行われた。

2. 同上機関誌印刷方針

3. 同上機関誌書評応募函書の取扱い

4. その他

日本地域学会 第 20 回編集委員会

日時: 平成 20 年 11 月 16 日 (日) 13:00-14:30

場所: 日本交通政策研究会 会議室

出席者: 多和田, 氷鉤, 有吉, 加賀屋, 木南, 渋澤, 三友
の各編集委員 (ただし, 木谷, 斎藤, 高橋, 中川, 原, 光
多, 長野委員より委任状付託); 内田, 小林, 水野谷, 櫻
井, 田中の各幹事; 坂田事務局秘書

議題

1. 『地域学研究』第 38 巻掲載候補論文の選考

レフェリー評価に基づき、第38巻の掲載論文の選考が行われた。

2. 同上機関誌印刷方針
3. 同上機関誌書評応募図書取扱
4. その他

日本地域学会 第21回編集委員会

日時: 平成20年12月21日(日) 11:00-12:00

場所: 日本交通政策研究会 会議室

出席者: 多和田, 氷鉤, 有吉, 加賀屋, 木南, 渋谷, 高橋, 原, 藤岡, 光多, 長野の各編集委員(ただし, 斎藤, 中川, 三友委員より委任状付託); 内田, 小林, 水野谷, 櫻井の各幹事; 坂田事務局秘書

議題

1. 『地域学研究』第38,39巻掲載候補論文の選考
レフェリー評価に基づき、第38巻の掲載論文の選考が行われた。また、第39巻掲載候補論文の査読候補者の選考を行った。
2. 同上機関誌印刷方針
3. 同上機関誌書評応募図書取扱
4. その他

VII. 役員人事等

平成21・22年期 日本地域学会事務局, 各種委員会等の構成及び交代についてお知らせいたします。

1. 日本地域学会事務局

会長

多和田 眞 (名古屋大学)

副会長

細江 守紀 (九州大学)

加賀屋 誠一 (北海道大学)

氷鉤 揚四郎 (筑波大学)

総務担当常任理事 (事務局長)

氷鉤 揚四郎 (前出)

財務担当常任理事

有吉 範敏 (下関市立大学)

庶務担当常任理事

渋谷 博幸 (豊橋技術科学大学)

理事

浅見 泰司 (東京大学)

臼井 功 (横浜国立大学)

岡村 誠 (広島大学)

木南 莉莉 (新潟大学)

熊田 禎宣 (千葉商科大学)

河野 博忠 (筑波大学名誉教授)

近藤 光男 (徳島大学)

斎藤 参郎 (福岡大学)

酒井 泰弘 (滋賀大学)

高橋 秀悦 (東北学院大学)

戸田 常一 (広島大学)

富川 盛武 (沖縄国際大学)

中山 恵子 (中京大学)

萩原 清子 (佛教大学)

原 勲 (北星学園大学)

福井 秀夫 (政策研究大学院大学)

藤岡 明房 (立正大学)

松本 昭夫 (中央大学)

光多 長温 (鳥取大学)

三橋 博巳 (日本大学)

三友 仁志 (早稲田大学)

宮城 俊彦 (東北大学)

宮田 譲 (豊橋技術科学大学)

監事

筒井 信之 (株式会社創建)

富山 慶典 (群馬大学)

第46回年次大会準備委員会及び実行委員会

委員長: 戸田 常一 (前出)

副委員長: 岡村 誠 (前出)

学術委員会

委員長: 藪田 雅弘 (中央大学)

副委員長: 氷鉤 揚四郎 (前出)

副委員長: 鐘ヶ江 秀彦 (立命館大学)

広報委員会

委員長: 氷鉤 揚四郎 (前出)

副委員長: 渋谷 博幸 (前出)

副委員長: 森島 隆晴 (敬愛大学)

名誉会員推薦委員会

委員長: 熊田 禎宣 (前出)

副委員長: (空席)

機関誌編集委員会

委員長: 多和田 眞 (前出)

副委員長: 松本 昭夫 (中央大学)

Managing Editor: 氷鉤 揚四郎 (前出)

学会賞選考委員会

委員長: 酒井 泰弘 (前出)

副委員長: (空席)

学会幹事 (会則第 18 条第 6 項)

(1) 事務局幹事

総務・財務・庶務担当常任理事付

水野谷 剛 (群馬県産業支援機構)

小林 慎太郎 (国際農林水産業研究センター)

内田 晋 (中央農研)

(2) 委員会幹事

学術委員会

田中 正秀 (金沢星稜大学)

櫻井 一宏 (海洋政策研究財団)

名誉会員推薦委員会

水野谷 剛 (前出)

機関誌編集委員会

内田 晋 (前出)

学会賞選考委員会

櫻井 一宏 (前出)

事務局 事務秘書

坂田 道子 (筑波大学 生命環境科学研究科 氷鉤研究室秘書)

事務局所在地

筑波大学 生命環境科学研究科 氷鉤研究室内

〒 305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

tel: +81-29-853-7221 (fax)

sec@jrsai.envr.tsukuba.ac.jp

2. 第 46 回 (2009 年) 年次大会 準備委員会及び実行委員会

今年度の年次大会は、広島大学 (東広島キャンパス: 東広島市鏡山一丁目) で開催されます。主として、その開催準備の労をおとり頂く準備委員会委員の方々は以下の通りです。

委員長 (準備委員長):

戸田 常一 (広島大学大学院社会科学研究科)

副委員長:

岡村 誠 (広島大学大学院社会科学研究科)

実行委員:

大内田 康徳 (広島大学大学院社会科学研究科)

大澤 俊一 (広島大学大学院社会科学研究科)

越智 泰樹 (広島大学大学院社会科学研究科)

石田 三樹 (広島大学大学院社会科学研究科)

伊藤 敏安 (広島大学大学院社会科学研究科)

柴田 浩喜 (広島大学大学院社会科学研究科)

なお、例年通り、この他に学会役員及び幹事が準備委員の任に当たります。また、当日の実行委員会は上記準備委員会で構成します。

3. 学術委員会

委員長: 藪田 雅弘 (前出)

副委員長: 氷鉤 揚四郎 (前出)

副委員長: 鐘ヶ江 秀彦 (前出)

委員:

有吉 範敏 (前出)

加賀屋 誠一 (前出)

渋谷 博幸 (前出)

高橋 秀悦 (前出)

多和田 眞 (前出)

戸田 常一 (前出)

宮田 譲 (前出)

幹事:

田中 正秀 (前出)

櫻井 一宏 (前出)

4. 広報委員会

委員長: 氷鉤 揚四郎 (前出)

副委員長: 渋谷 博幸 (前出)

副委員長: 森島 隆晴 (前出)

委員:

有吉 範敏 (前出)

加賀屋 誠一 (前出)

近藤 光男 (前出) (西部担当)

松本 昭夫 (前出)

高橋 秀悦 (前出) (東部担当)

三友 仁志 (前出)

山 朗 (中央大学)

幹事:

事務局幹事

5. 名誉会員推薦委員会

委員長: 熊田 禎宣 (前出)

副委員長: (空席)

委員:

有吉 範敏 (前出)

加賀屋 誠一 (前出)

渋澤 博幸 (前出)

水鉤 揚四郎 (前出)

幹事:

水野谷 剛 (前出)

6. 機関誌編集委員会

委員長: 多和田 眞 (前出)

副委員長: 松本 昭夫 (前出)

編集総務 (*Managing Editor*): 水鉤 揚四郎 (前出)

委員:

有吉 範敏 (前出)

木谷 忍 (東北大学)

木南 莉莉 (前出)

熊田 禎宣 (前出)

齋藤 参郎 (前出)

渋澤 博幸 (前出)

高橋 秀悦 (前出)

原 勲 (前出)

藤岡 明房 (前出)

光多 長温 (前出)

三友 仁志 (前出)

細江 守紀 (前出)(規程第3条第6号)

長野 章 (公立はこだて未来大学)(規程第3条第6号)

戸田 常一 (前出)(規程第3条第6号)

顧問:

Peter Batey (University of Liverpool)

Tüzin Baycant-Levent (Istanbul Tech.l Univ.)

Kingsley Haynes (George Mason Univ.)

Geoffrey Hewings (Illinois Univ.)

Lars Lundqvist (Royal Inst. of Tech.)

Gordon Mulligan (University of Arizona)

Peter Nijkamp (Free Univ.)

David Plane (Arizona University)

Jacques Poot (University of Waikato)

John Quigley (Univ. of California, Berkeley)

Michael Sonis (Bar-Ilan University)

Roger Stough (George Mason University)

幹事:

内田 晋 (前出)

7. 学会賞選考委員会

委員長: 酒井 泰弘 (前出)

副委員長: (空席)

委員:

有吉 範敏 (前出)(細則第2条第1項第三号)

岡村 誠 (前出)

加賀屋 誠一 (前出)(第二号)

河野 博忠 (前出)(第六号)

渋澤 博幸 (前出)(第三号)

多和田 眞 (前出)(第一号)

Peter Nijkamp (前出)(第六号)

萩原 清子 (前出)

水鉤 揚四郎 (前出)(第三号)

三友 仁志 (前出)

藪田 雅弘 (前出)

幹事:

櫻井 一宏 (前出)

注: この委員会は優秀発表賞選考委員会を兼ねます。

8. Council of the RSAI and Council of the PRSCO of the RSAI

(国際地域学会及び同環太平洋地域学大会機構 理事会)

RSAI Council

Councillor:

水鉤 揚四郎 (PRSCO 選出)(前出)

PRSCO Council

Councillor & Immediate Past President

熊田 禎宣 (前出)

Councillor & Executive Secretary

水鉤 揚四郎 (前出)

Councillor:

多和田 眞 (前出)

宮田 譲 (前出)

9. 日本経済学会連合

評議員 (日本地域学会選出)

鐘ヶ江 秀彦 (立命館大学)

渋澤 博幸(前出)

「日本経済学会連合 英文年報」への日本地域学会
分の担当係

編集委員: 白井 功(前出)

執筆担当: 渋澤 博幸(前出)

10. 地理関連学会連合

担 当:

伊藤 達雄(名古屋産業大学)

藪田 雅弘(前出)

VIII. 平成 21 年度 日本地域学会 会費 納入のお願い

日本地域学会 会員 各位

日本地域学会
会長 多和田 眞

謹啓 貴会員におかれましては益々御健勝のことと
お喜び申し上げます。

さて、早速ですが、同封致しました請求書の通り、
日本地域学会平成 21 年度会費をご請求申し上げます
ので、

納入期限 平成 21 年 3 月末日

までに同封の振込用紙にてお支払いいただけます様
お願い申し上げます。

なお、預金口座引落しの手続きを平成 21 年 3 月
20 日までに完了された方には、平成 21 年 6 月 26 日
に請求内容にしたがって引落しを行いますのでお早
めに手続きをおとり下さる様お奨め致します。

何かと出費のかさむ折から誠に恐縮ですが、事務
処理の円滑化及び再度にわたる督促の経費節減、さ
らに予想されます円安傾向の為替リスク回避のため
上記期限までの早期納入にご協力いただけますよう、
かさねてお願い申し上げます。

敬 具

1. 平成 21 年度 日本地域学会 会費等(適用期間限 定)

(1) 平成 21 年度(平成 21 年 4 月 1 日 - 平成 22 年 3
月 31 日)

一般会員年会費 10,000 円

学生会員年会費 7,000 円

(2) *Papers in Regional Science* を印刷された形で
の購読希望の方の追加料金

一般会員 7,000 円

学生会員 3,000 円

但し、これらの会費、購読料が適用されるのは、

(a) 納入期限: 平成 21 年 3 月末日までに上記会
費を納入された日本地域学会 会員の方、または、

(b) 平成 21 年 3 月 20 日までに預金口座引落し
の手続きを完了された日本地域学会 会員の方に限
りますのでご注意ください。

2. 会費の期限内納入の特典

外国為替市場の成り行きが不透明な事もあって、
上記の金額で期限を遅れて RSAI 会費をご納入いた
だいても、著しく為替差損を生じ、これを日本地域学
会の一般会計が負担しなければならない危険が見込
まれます。

日本地域学会 理事会では、このような事を考慮し
て、上記納入期限に遅れた場合には、

(1) 一般会員年会費として 11,000 円を請求する。

(2) 学生会員年会費として 8,000 円を請求する。

(3) *Papers in Regional Science* を印刷物として購
読希望の追加料金を一般会員は 8,000 円、

(4) 上記 学生会員は 4,000 円を請求する。

という事を理事会で決定致しております。この主旨
をご理解いただき、会費関連の事務処理の円滑化、経
費節減にご協力頂けますよう、事務局からも重ねて
お願い申し上げます。

3. Web 会員

本学会機関誌『地域学研究』の電子ジャーナル
を、J-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システム)
により発行しております。これにより、会員の研究
成果が広く世界に向けて情報発信されております。
Web 会員に登録されますと、最新の論文が電子ジャー
ナル(本文 PDF)として閲覧可能となります。Web
会員登録を希望される方は、学会のホームページか
ら、電子ジャーナル『地域学研究』個人購買者認証
申込書(Web 個人会員)をダウンロードしていただき、
これにご記入の上、事務局までお申し込みくださ

い。

Web 会員価格(平成 21 年 4 月 1 日ー平成 22 年 3 月 31 日)は以下ようになります。

(1) 正会員である個人(Web 個人会員 A) 年会費 2,000 円

(2) 非会員である個人(Web 個人会員 B)* 年会費 5,000 円

(3) 法人会員である団体もしくは機関(Web 機関会員 A) 年会費 10,000 円

(4) 非法人会員である団体もしくは機関(Web 機関会員 B)* 年会費 40,000 円

* Web 個人会員 B と Web 機関会員 B は、電子ジャーナル閲覧のみのサービスとなります。

IX. 第 46 回日本地域学会年次大会

(平成 21 年 10 月 10(土)-12 日(月))

論文報告の募集

平成 21 年度(2009 年)日本地域学会第 46 回年次大会は、広島大学において下記の通り開催されます。

会員諸賢におかれましては、論文報告、特別セッションの編成等、奮ってご参加下さい。

なお、論文報告・特別セッション編成の受付は日本地域学会事務局、大会参加の受付は大会事務局が扱うことに御留意下さい。

記

開催日: 平成 21 年 10 月 10 日(土)-12 日(月)

開催校: 広島大学(東広島キャンパス)

会場: セッション・総会・シンポジウム: 東広島キャンパス(東広島市鏡山 1 丁目)

懇親会: 西条 HAKUWA ホテル(東広島キャンパスから徒歩 3 分)

大会事務局: 〒730-0053 広島市中区東千田町 1 丁目 1-89 広島大学 東千田キャンパス

広島大学大学院社会科学研究所附属地域経済システム研究センター

同センター長 伊藤 敏安

TEL: 082-542-6991, FAX: 082-249-4991

E-mail: itot@hiroshima-u.ac.jp

<http://www-cres.senda.hiroshima-u.ac.jp/>

大会準備委員会 委員長: 戸田 常一(広島大学大学院社会科学研究所 教授)

大会準備委員会 副委員長: 岡村 誠(広島大学大学院社会科学研究所 教授)

共通論題:

- (a) 地域経済・地域雇用
- (b) 産業集積・情報
- (c) 環境評価・環境政策
- (d) 地域環境・地球環境
- (e) 国際経済政策
- (f) 交通・コミュニケーション
- (g) 経済分析・モデル分析
- (h) 意識分析・行動分析
- (i) 地方分権・地方財政・道州制
- (j) 持続可能都市・地域システム
- (k) 都市再生・地域再生
- (l) 沿岸域管理・海洋政策
- (m) ツーリズム
- (n) アジア経済

一般論題: 立地、人口移動、地域経済等の地域学一般の課題すべて

総会

日時: 平成 21 年 10 月 10 日(土) 17:00- (予定)

場所: 東広島キャンパス

(公開)シンポジウム

日時: 平成 21 年 10 月 11 日(日)14:00-17:30(予定)

場所: 東広島キャンパス

テーマ: 中国山地から日本を考えるー中国地方の中山間地域で活躍する女性たちの提言ー

開催主旨: 中国地方では少子・高齢化、人口減少が進展している「限界集落」が多い。多くの地域は消滅の危機に瀕している。その半面、特徴のある地域づくりが活発である。特に女性たちの発想と行動力はもの凄い。中国地方の中山間地域で活躍する女性たちの提言と討論を通じて、近未来の日本を考える。

話題提供者: 中国山地で地域づくりに取り組む女性 3 人程度

以上

論文報告・特別セッション編成の募集

論文報告と特別セッションの編成を希望される方は、下記の事項を明記し、日本地域学会事務局へ e-mail, fax または封書等で応募して下さい。応募締切は平成 21 年 5 月 31 日です。なお、専用の応募用紙を利用される場合は、学会ホームページからダウンロードできます。

[論文報告] 応募の必要事項

1. 論文タイトル
2. 上記が和文の場合には、同英文訳
3. 著者名、所属 (複数の場合には、発表者を明記)
4. 同上英文表記
5. Abstract: 和文 (700 字以内) 及び英文 (200 words 以内) の双方を提出
6. 対応責任者氏名、連絡先住所、tel, fax, e-mail アドレス等
7. 希望討論者 2 名 (会員に限る; 必ずしも希望通りにならないことをあらかじめご承知おき下さい)

[特別セッション編成] 応募の必要事項

1. セッションタイトル及びセッションの意図、内容等の概要 (和文 300 字以内、英文 100 words 以内)
2. 座長 (1-2 名の会員) 氏名、所属、同英文表記
3. 1 セッション当たり 3-4 編の報告を目途に、各論文についての上記論文報告希望に準ずるデータ。但し、討論者は各々の論文について 1 名でも可。
4. 対応責任者氏名、連絡先住所、tel, fax, e-mail アドレス等

論文報告等に関する問合せ及び応募は、以下の日本地域学会事務局宛にお願いします。

氷鉤 揚四郎 (ひがの ようしろう)

筑波大学大学院生命環境科学研究科教授

〒 305-8572 つくば市天王台 1-1-1

tel, fax: 029-853-7221

メールによる応募: app@jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp

メールによる問合せ: sec@jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp

応募用紙の入手: http://jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp/index_jap.html

年次大会の参加申込み

大会及び懇親会の参加申込み方法は、4 月上旬を目途に学会ホームページにて公表する予定です。

学会ホームページ: http://jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp/index_jap.html

X. PRSCO 大会

第 21 回 PRSCO ゴールドコースト大会
(平成 21 年 7 月 19 日 (日)-22 日 (水))

論文報告の募集

第 21 回 PRSCO (21st Conference of Pacific Regional Science Conference Organization (PRSCO)) が、オーストラリア ゴールドコーストにおいて下記の通り開催されます。

PRSCO は日本地域学会がメインとする国際会議であります。最先端、最新の研究成果を発表する場として、また若手研究者の研究報告や、広く海外研究者との交流の場として、有効活用していただけます。日本からの参加者を対象とし、視察ツアーも企画される予定です。

会員諸賢におかれましては奮ってご参加ください。

アブストラクト・論文提出、大会登録、ホテル予約等は、大会ホームページをご覧ください。

記

開催日: 2009 年 7 月 19 日 (日)-22 日 (水)

開催地: Conrad Jupiter's Gold Coast, QLD Australia

大会委員長: David Fuller (University of Wollongong)

メインテーマ: GLOBAL CHALLENGES: REGIONAL RESPONSES

大会ホームページ: <http://www.uow.edu.au/conferences/PRSCO2009/home.html>

アブストラクト提出締切: 2009 年 3 月 20 日

論文提出締切: 2009 年 5 月 29 日

問合せ先: prSCO2009@uow.edu.au

以上

XI. 学会賞 授賞者選考候補者推薦の募集

日本地域学会では、地域学 (Regional Science) の発展に貢献する優れた会員の業績をたたえる為、日本地域学会学会賞を毎年授与しています。

今年度も第 18 回日本地域学会 学会賞授賞者選考候補者の推薦の募集を行いますので、どうか奮ってご応募下さい。学会賞は以下の各賞からなります。

功績賞: 地域学の進歩及び学会の運営に顕著な貢献をなした会員を表彰する。

論文賞: すぐれた研究論文によって地域学の発展に著しく寄与し、研究業績の意義や貢献が多である会員を表彰する。

奨励賞: 若手研究者ですぐれた研究論文を発表した会員を表彰する。

著作賞: 地域学の発展に著しく寄与し、その意義や貢献が多である著作物を表彰する。

学位論文賞: 本学会会員である博士または修士課程修了者がその修了要件として提出したすぐれた学位論文を表彰する。

優秀発表賞: 年次大会において優れた論文発表を行った会員に優秀発表賞を授与する。このうち最も優秀な論文発表を行った会員には最優秀発表賞を授与する。

功績賞・論文賞・奨励賞及び最優秀発表賞受賞者には賞状とメダルが、著作賞・学位論文賞及び優秀発表賞受賞者には賞状が授与されます。

第 18 回日本地域学会学会賞 授賞選考候補者推薦応募要領

◇応募期限

(1) 功績賞・論文賞・奨励賞・著作賞・学位論文賞: 平成 21 年 4 月 10 日 (金) (事務局必着)

(2) 優秀発表賞: 平成 21 年 5 月 31 日 (日) (年次大会発表申し込みと同時, 事務局必着)

◇応募方法: 功績賞への応募は他薦のみ、優秀発表賞への応募は自薦のみですが、その他への応募は自薦、他薦を問いません。所定の応募用紙を事務局に提出して下さい。

◇推薦資格: 推薦者は、日本地域学会会員であるこ

とが必要です。

◇受賞資格等

(1) 論文賞及び奨励賞の表彰対象となる研究業績は、過去 2 年間 (暦年) に発表したもので、その主たるものが本学会関連誌『地域学研究 (*Studies in Regional Science*)』及び *Papers in Regional Science of the RSAI* に掲載されている論文であることが条件です。

(2) 奨励賞の応募については、年令がその表彰対象となるべき主たる研究業績の発表当時 35 才未満であった事が必要です。

(3) 著作賞の表彰対象となる著作物については、過去 2 年以内に出版もしくは公表された研究図書であることが条件です。

(4) 学位論文賞については、表彰の時点において修了後 3 年以内のもので、当該学位論文に関連した学術論文を本学会の学術セッションで発表を行っているか、または本学会機関誌『地域学研究』あるいはこれに準ずる専門誌に掲載または掲載可として受理されていることが条件となります。なお、年齢による制限はありません。

(5) 発表賞については、以下のいずれかである必要があります。(a) 授賞対象となる論文発表の年度末において 30 歳以下である会員、(b) 授賞対象となる論文発表時において大学院に在籍する会員、(c) 年次大会の Early-bird Session (アーリー・バードセッション) で発表する会員であり、理事会がその表彰を適当と認めた会員。さらにいずれの場合も、対象となる論文の第一著者であり、かつ年次大会当日に口頭発表を行う本人である必要があります。

◇選考方法: 「日本地域学会 学会賞 (奨励賞・論文賞・功績賞) に関する規程」、「日本地域学会著作賞に関する規程」、「日本地域学会学会賞学位論文賞規程」、「日本地域学会学会賞優秀発表賞規程」に基づく選考委員会の審議による。決定次第、受賞者には連絡します。

◇授賞式: 第 46 回年次大会における総会 (平成 21 年 10 月 10 日 (土) 広島大学) にてとりおこないます。優秀発表賞については、年次大会後の理事会でとりおこないます。

◇応募用紙の請求: 日本地域学会事務局まで賞の種別を明記してご請求下さい。優秀発表賞については、

年次大会発表申込用紙中に応募欄があります。

XII. 会員通信

<研究室だより>

岡山大学大学院環境学研究科

阿部宏史研究室

教授 阿部 宏史

岡山大学では、平成6年10月に、全国の国公立大学で初めての環境系学部となる環境理工学部を創設した。環境理工学部は、環境数理学科、環境デザイン工学科、環境管理工学科、環境物質工学科の4学科で構成され、当研究室は環境デザイン工学科において「地域環境計画学」教育研究分野を担当している。

その後、岡山大学は、21世紀COEプログラム「循環型社会への戦略的廃棄物マネジメント」（平成15年度～19年度）の採択を受けて、環境科学分野の教育・研究体制の充実・強化を図るため、平成17年度に大学院環境学研究科を設置した。環境学研究科は、社会基盤環境学専攻（都市環境創成学及び農村環境創成学の2講座）、生命環境学専攻（環境生態学及び人間生態学の2講座）、資源循環学専攻（廃棄物マネジメント学及び物質エネルギー学の2講座）の3専攻で構成され、当研究室は資源循環学専攻において「循環型社会計画学」教育研究分野を担当している。

当研究室の主たる専門分野は、都市・地域計画学及び交通計画学であるが、環境理工学部創設後は、環境計画学や環境経済学の分野に研究対象を拡大している。このような経緯から、当研究室では、都市・地域計画、交通計画、環境計画などの幅広い分野の研究を扱っている。過去に地域学研究に掲載された論文との関係で、主な研究テーマをまとめると、以下の通りである。

(1) 地域産業連関モデルの環境分析への応用

地域産業連関モデルを用いて、地域経済と資源・エネルギー消費、二酸化炭素排出、産業廃棄物排出などの環境負荷指標との関連を分析し、環境負荷の小さい循環型社会構築に向けた政策課題を検討している。これまでに、経済産業省が公表している全国9地域別産業連関表及び9地域間産業連関表、また国立環境研究所が全国産業連関表の部門基づいて推計

した二酸化炭素排出量、環境省による産業廃棄物排出量推計値等の環境負荷データを用いて環境分析用の地域産業連関モデルを構築し、地域経済の変動が二酸化炭素や産業廃棄物の排出量に及ぼす影響を時系列で分析した。研究成果は、地域学研究第34巻・第1号(2004)、第33巻・第3号(2004)、及び第30巻・第1号(2000)に掲載されている。

(2) 地域経済の成長格差に関する研究

全国の地域や都市を対象として、経済のサービス化・ソフト化、グローバル化、高度情報化などの経済社会情勢の変化が、地域経済成長や雇用成長の地域間格差に及ぼす影響、さらには地域間人口移動との関連を実証的に分析している。最近の研究では、(1)の環境分析と同様に地域産業連関モデルを適用して、経済のサービス化・ソフト化と雇用成長との関係を分析し、東京一極集中の要因や地域経済活性化に向けた政策課題を検討した。これまでの研究成果は、地域学研究第20巻・第1号(1990)、第28巻・第1号(1998)、及び第35巻・第1号(2005)に発表している。

(3) 地域間交流の長期的推移と広域交通整備

旅客流動、貨物流動、観光流動などの地域間交流パターンの長期的推移を検討するとともに、高速道路、新幹線、航空等の広域交通整備との関連を分析している。地域学研究には、高速道路整備が地域間貨物流動に及ぼした影響と便益評価(第34巻・第1号(2004))、貨物輸送におけるモーダルシフト政策が二酸化炭素排出削減に及ぼす影響のシミュレーション分析(第37巻・第4号(2008))の各研究が掲載されている。

(4) 地方都市における小売業集積の動態と買い物行動の変化

モータリゼーションの進展やライフスタイルの変化、そして大型店に対する立地規制の緩和などが、市町村の小売業集積と買い物行動に及ぼす影響を、地域分析手法や買い物行動モデルを用いて分析するとともに、地方都市における中心市街地問題への対応策や基本的な生活サービスを維持・改善していくための施策を検討している。岡山県内市町村を対象とする小売業集積と買い物行動に関する研究成果が、地域学研究第32巻・第1号(2002)に掲載された。

以上の研究以外にも、都市交通計画に関するテーマを扱っているが、日本地域学会における発表事例が無いため、説明を省略する。

私事になるが、大学院生時代に日本地域学会に入会し、過去25年近くにわたり、年次大会での報告や地域学研究の論文査読を通じて、学会員諸兄から数多くの有益な助言をいただいていた。この場を借りて、篤く御礼を申し上げる次第である。また、(1)と(2)で述べた地域産業連関モデルによる研究成果に対し、2006年度の日本地域学会論文賞を授与されたことは身に余る光栄であった。

当研究室のテーマは、時系列の地域統計を用いた実証的分析が中心であるため、基礎となるデータの収集や加工に労力と時間を要する場合が多い。以前は、データを統計調査報告書等の紙媒体から入力していたため、この作業に時間の多くを取られていたが、最近では多くのデータが電子媒体で提供されており、データ収集の労力は大きく減少した。その反面、データの重要性や加工における慎重な取り扱いに対する学生の意識が低下しているようである。また、パソコンや統計ソフトの普及、さらには電子媒体での様々なデータの提供によって分析作業は楽になったが、分析手法とデータの双方がブラックボックス化しており、学生が研究面の素養を身につける上では良くない状況と感じている。

研究室の大学院生は、日本地域学会年次大会での発表を毎年の目標としており、発表の場で先達の先生方からいただく丁寧なコメントは、大学院生の研鑽と研究意識を高める上で大変有益である。今後も、研究成果の発表を通じて、日本地域学会の発展に貢献できれば望外の喜びである。

(研究室ホームページ：<http://www.civil.okayama-u.ac.jp/regional/regional.html>)

XIII. 会員の移動

新入会員

正会員 74名

東 太樹(筑波大学生命環境科学研究科大学院生)

石田 三樹(広島大学社会科学研究所教授)

石田 祐(財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機

構安全安心社会研究所研究員)

市川 聖(新潟大学大学院自然科学研究科)

伊藤 孝則(鳥取大学大学院地域学研究科大学院生)

植野 甲史郎(筑波大学大学院生命環境科学研究科学生)

上林 篤幸(農林水産政策研究所上席主任研究官)

宇都宮 裕樹(岡山大学大学院環境学研究科博士前期課程)

江口 潜(新潟産業大学経済学部准教授)

閻 晶晶(筑波大学大学院生命環境科学研究科博士課程)

王 敦彦(筑波大学大学院生命環境科学研究科大学院生)

大島 肇((株)アール・ピー・アイ調査計画部マネージャー)

大谷 衣梨香(筑波大学生命環境科学研究科学生)

大平 佳男(法政大学大学院経済学研究科博士後期課程)

小川 健(名古屋大学経済学研究科博士後期課程)

奥田 麻衣(広島大学国際協力研究科大学院生)

越智 泰樹(広島大学社会科学研究所准教授)

柿田 公孝(中央復建コンサルタンツ株式会社)

葛 建平(筑波大学生命環境科学研究科)

河合 潤(北海道大学大学院公共政策学教育部大学院生)

河野 秀孝(青森公立大学経営経済学部経済学科教授)

河野 真典(京都大学大学院工学研究科大学院生)

川本 清美(北海道教育大学函館校人間地域科学課程准教授)

金花(筑波大学生命環境科学研究科学生)

金 彬(筑波大学生命環境科学研究科学生)

倉田 洋(東北学院大学経済学部講師)

黒川 清登(国際協力機構開発研究所)

小浦方 格(新潟大学地域共同研究センター准教授)

小平 慎一郎(筑波大学大学院生命環境科学研究科大学院生)

小谷 廉和(鳥取大学大学院地域学研究科大学院生)

小林 誠(筑波大学生命環境科学研究科学生)

後藤 宏和(筑波大学大学院生命環境科学研究科学生)

崔 香玉(筑波大学大学院生命環境科学研究科修士学生)

斎藤 雄一(立正大学大学院経済学研究科大学院生)

崎谷 唯比古(北海道大学大学院公共政策学教育部大学院生)

Satitsamitpong, Manit(早稲田大学国際情報通信研究科博士課程)

佐藤 貴裕(福岡大学大学院経済学研究科博士課程)

佐藤 洋禎(福岡大学経済学部)

七田 知子(福岡大学経済学部)

柴田 浩喜((社)中国地方総合研究センター情報開発部情報開発部長)

白柳 博章(奈良県高田土木事務所)

杉原 亮太(岡山大学大学院環境科学研究科博士前期課程)
鈴木 遥(法政大学キャリアデザイン学部学生)
鈴木 健一郎(北海道大学大学院工学研究科大学院生)
学博(筑波大学生命環境科学研究科学生)
曾根 秀一(滋賀大学大学院経済学研究科博士後期課程)
高木 健(福岡大学大学院経済学研究科博士課程)
高崎 晴夫((株)KDDI 総研調査部調査部長)
高橋 義文(北星学園大学経済学部講師)
田島 正士(滋賀大学大学院経済学研究科博士後期課程)
立花 敏((独)森林総合研究所北海道支所チーム長)
張 媛(南山大学大学院総合政策研究科大学院生)
張 穎(南山大学大学院総合政策研究科大学院生)
張 倩(中央大学経済学研究科大学院生)
Chaiubon, Chomyong(筑波大学生命環境科学研究科大学院生)
中川 由美(千葉商科大学大学院政策研究科博士課程)
中西 穂高(経済産業研究所上席研究員)
中村 俊彦((財)環日本海経済研究所調査研究部部長)
永松 俊雄(熊本県総合政策局政策調整監)
永松 利文(鳥取大学教育センター准教授)
Nassar, Hussein(早稲田大学国際情報通信研究科修士課程)
野崎 道哉(中央大学経済研究所客員研究員)
樋口 靖典(北海道大学大学院工学研究科大学院生)
Hewings, Geoffrey J.D.(University of Illinois at Urbana- Champaign, Regional Economics Applications Laboratory)
比留間 望人(筑波大学生命環境科学研究科大学院生)
Batey, Peter(University of Liverpool, Faculty of Social and Environmental Studies)
黛 陽子(筑波大学大学院生命環境科学研究科博士課程)
皆川 洸太(北海道大学大学院工学研究科大学院生)
劉 南希(梨花女子大学(韓国)梨花女子大学院地域学(日本))
Yuhana, Astuti(新潟大学自然科学研究科修士2年)
楊 (筑波大学生命環境科学研究科学生)
李 松花(筑波大学生命環境科学研究科学生)
李 崢(筑波大学生命環境科学研究科学生)
劉 朋春(名古屋大学経済学研究科)

法人会員 3 団体

茨城トヨタ自動車株式会社
トヨタ部品茨城共販株式会社

茨城トヨペット株式会社

退会会員

正会員 39 名

Adi Bongo

伊藤 昭男

後口 寛生

太田 博三

影山 絵理奈

Katia Andrade

門田 真知子

桐谷 維

榊原 依子

新家 誠憲

大門 創

張 彦

出村 克彦

中尾 靖之

濱田 朋宏

平塚 健

前田 修也

山路 光夫

李

李 秉東

法人会員 1 団体

株式会社 SB サポート

有馬 もと

岩田 奇志

塩谷 彰浩

貝山 道博

柏谷 増男

加藤 力

亀山 嘉大

熊谷 彰矩

佐藤 康仁

鈴木 潔

竹本 勝紀

塚本 幸輝

董 晶輝

中場 公教

林 農

古澤 浩司

松下 秀介

山本 匡毅

李 東雨